

総務常任委員会 による 所管事務調査 9月11日

8月27日から28日にかけての記録的な豪雨に伴う小城市内の災害状況について総務部・市民部より概要報告を受けた。道路の冠水により交通規制の誘導を職員が行っていたが、薄暗い中で濃い色のシャツを着て、誘導灯1本で行っており、危険と感じた。今後の課題として反射材付きの安全ベストやヘルメット等の安全対策の指摘を行った。

浸水被害を受けた家屋への消毒用として、オスバンの使用を要請し、消毒資材としてオスバンの備蓄を検討したいとの回答を得た。現地確認調査では、

総務常任委員7人で、小城消防署と北分署に出向き、当時の救助活動について報告を受けた。また、小城建設業協会へ出向き、迅速な対応に対してお礼を述べ、最後に災害ゴミ処理場の集積状況を視察した。



▲災害当日の状況をヒアリング（小城消防署）



▲災害ゴミ集積所を視察（小城市廃棄物中継センター）

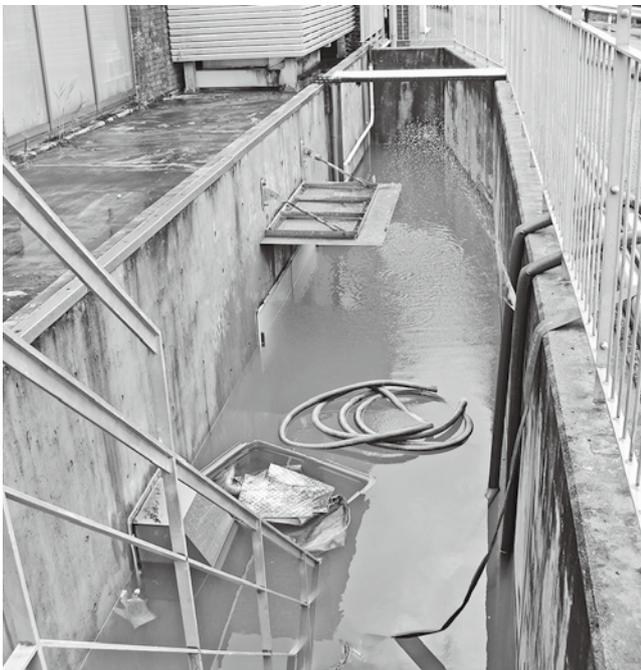
文教厚生常任委員会 による 所管事務調査 9月12日

文教厚生常任委員会が所管する公共施設の被害としては、教育委員会関係では、牛津赤れんが館や牛津会館が浸水被害に遭い、芦刈文化体育館では、豪雨の吹き込みによる配電盤の故障が発生している。

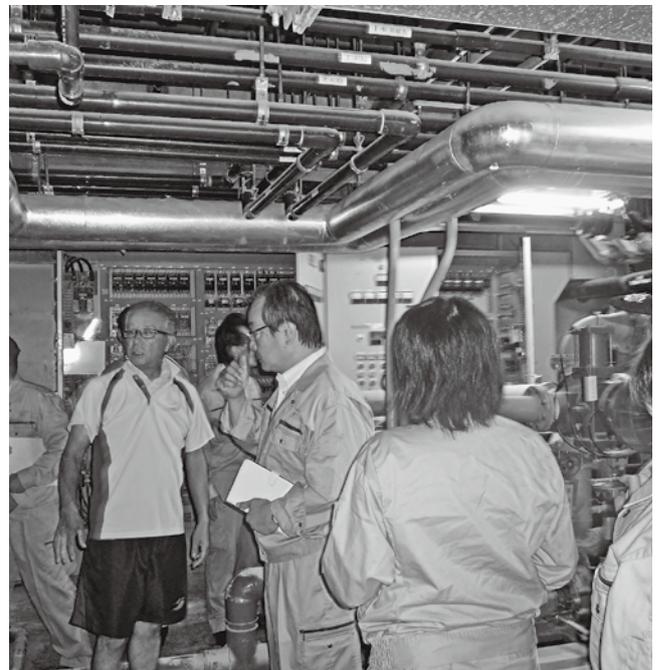
被害が一番大きかった牛津保健福祉センター「アイル」と災害ボランティアセンターを現地視察。「アイル」においては、温泉、プールの電気および動力関係は、地下機械室に設置していたため、地下に設置されていた配電盤は使用不可となっている。執務室の電力は無事で、水道やトイレも仮復旧ができたので、温泉とプール以外は9月16日に営業再開されている。

災害ボランティアセンターには9月11日までに444人のボランティアが駆けつけた。また、小城市が協定している佐賀女子短期大学からコーディネーターを派遣していたが、スキルのある団体の受け入れやマッチングでスムーズな運営ができた。今後は要請に応じて随時募集、対応していく。

被災地確認後、普通教室の空調設備を整備する「小中学校の空調設備整備事業」の状況を牛津中学校で視察。子どもたち、先生方の環境もより良くなっていた。



▲地下機械室の入口ドア上部まで浸水（アイル）



▲水没した地下機械室（アイル）



▲初めて設置された小城市災害ボランティアセンター（牛津公民館北別館）

産業建設常任委員会 による 所管事務調査 9月13日

8月27日から28日の豪雨で産業部、建設部の被災した主なものの被災状況、復旧状況について現地へ出向き被災地の現状を調査した。

産業部関係では、確認されている292ヶ所の被災地のうち、西分第一ため池の堤防決壊現場と北浦ため池東側の農道崩落現場、林道天山線の復旧状況について調査した。西分ため池の堤防決壊現場は堤防が約20mにわたり決壊、また、管理道路の亀裂や余水吐きの破損などの被害であった。次に北浦ため池東側の農道崩落現場は延長約16mにわたり道路全体が崩壊していた。

次に林道関係では、52ヶ所の被害があり、その中で天山線の状況を確認した。江里山・焼山間は、路肩崩壊や規模の大きい法面崩壊で当面通行止めになるとのこと。建設部では、確認されている56ヶ所の被災地のうち小城市の法面崩壊により家屋が全壊1棟と崩壊土砂が家屋内に流れ込み家屋が半壊している現場を調査した。現在も、すべり面が裸地の状態となっているため、今後の降雨による新たなすべり面が発生する恐れがあり、早急な復旧対策が望まれていた。



▲西分第1ため池の堤防決壊により、土砂が流入した第2ため池（三日月町西分）



▲北浦ため池東側農道の崩落（小城市北浦）